日刊産業新聞ホームページ
http://www.japanmetal.com/
E-mail sangyo@sangyo.co.jp
携帯サイト QRコード
http://www.japanmetal.com/m/

発行所　産業新聞社
東京本社　東京都中央区新川1−16−14　TEL 03(5566)8770㈹　FAX 03(5566)8185
大阪本社　大阪市西区靭本町1−5−15　TEL 06(6443)8551㈹　FAX 06(6443)3828
アジア総局　上海市楼山関路85号 東方国際大厦C座1604室
上海支局　TEL 86-21-6278-7750　FAX 86-21-6278-7751

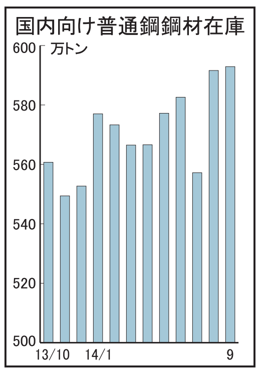
日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin

2014年（平成26年）
10月30日（木）
第18612号
Since 1936

国内支社局網
中部支社　名古屋市中区上前津1−4−12　TEL 052(331)3371
中国支社　広島市南区大須賀町14−12　TEL 082(263)5523
北海道支局　札幌市北区北七条西4−8−3　TEL 011(756)1321
福岡支局　福岡市博多区博多駅前4−14−1　TEL 092(472)3887
東北支局　仙台市青葉区大町1−1−8　TEL 022(223)9032
北信越支局　新潟市中央区万代4−2−23　TEL 025(244)7600

普通鋼在庫 593万㌧と高水準続く
国内向け9月末 2カ月連続増

日本鉄鋼連盟が29日発表した普通鋼鋼材需給速報によると9月末の国内向け在庫は前月比2000㌧増の592万9000㌧と2カ月連続で増加し、2001年10月（595万㌧）以来、13年ぶりの高水準に積み上がったままとなった。輸出船待在庫は28万6000㌧、25・7%減の82万8000㌧で3カ月ぶりに減少。9月末の在庫率は出荷増によって19・3㌽ダウンの102・5%となったが、うち国内は19・7㌽ダウンの143・4%とハイレベルにあり、在庫調整局面は続いている。



9月末の普通鋼鋼材在庫トータルは28万4000㌧、4・0%減の675万7000㌧で2カ月ぶりに減少。うちメーカー在庫は38万5000㌧、6・9%減の522万2000㌧で2カ月ぶり減、問屋在庫は10万1000㌧、7・0%増の153万5000㌧で2カ月連続増となった。

9月の出荷は80万9000㌧、14・0%増の659万2000㌧。うち国内は50万㌧、13・8%増の413万5000㌧、輸出は30万9000㌧、14・4%増の245万7000㌧。生産は2万1000㌧、0・3%増の630万8000㌧だった。

8月末の大幅な在庫増は大型台風など悪天候による物流の停滞が要因と見られていた。9月末は減少すると予想されていたが、国内向けは減らなかった。

メーカー在庫は鋼板・条鋼など多くの品種が減少。国内向けがメーンとなる問屋在庫は、めっき鋼板類や鋼管などの増加が目立った。

鉄連は、消費税増税などの影響で年初から建築部門が軟調となり、夏から自動車が減速しており、鋼材在庫は調整局面にあると分析している。

リオ・ティント
東北復興イベント開催
ウォルシュCEO来日 新日鉄住金など参加

【仙台】英資源大手のリオ・ティントは28日、仙台市内のホテルで「東北の復興を考える夕べ"The Road Ahead"」を開き、新日鉄住金、三菱商事、三菱東京UFJ銀行、コマツ、東北大学、オーストラリア大使館など約30人が集まった。

同イベントは、東北のさらなる復興と発展に向け、民間の立場で今後何ができるのかを考えるもので、当日は同社のサム・ウォルシュCEOが来日。また、NPO法人「森は海の恋人」代表の畠山重篤氏と、岩手県陸前高田市海外広報ディレクターのアミア・ミラー氏を招き、講演を行った。

冒頭、ウォルシュCEOは「当社は、長い間日本と密な関係を築いてきた。そのような中、3年半前に東日本大震災が起こり、どうすれば重要なパートナーであり友達を、長期的に助けることができるのか考えた。当社としても、コマツと共同で奨学金を設け、毎年33人の学生を進学させるなどの取り組みを行っている。今日は、さまざまな意見や考えを聞かせてほしい」とあいさつした。

あいさつするウォルシュCEO

日本で幼少時代を過ごしたアミア氏は、震災直後にボランティアとして再来日。陸前高田の戸羽太市長から海外広報担当を依頼され、被災地の状況やニーズを伝えている。アミア氏は「あれから3年半が過ぎたが、特に日本の方には忘れないでほしいと訴えたい。復興はまだまだこれからで、継続的なサポートが必要」と話した。

また、漁民による落葉広葉樹の植林活動『森は海の恋人運動』を行っている畠山氏は、「震災直後は海の生き物がいなくなり、海は死んだと思ったが、3カ月ほどたつと戻ってきた。森に落葉広葉樹を植え、川を通じて海に栄養が流れたためで、森と川と海との関係を大切にしていれば、生き物はちゃんと戻ってくるとわかった。その橋渡しを鉄が果たしており、生物と鉄との関係を認識すべき」と語った。

ウェスト・アンジェラス鉄鉱山
拡張順調、延命化も推進
豪原料炭鉱、引続き操業

【仙台】リオ・ティントのサム・ウォルシュCEOと鉄鉱石部門責任者のアンドリュー・ハーディング氏が来日し、産業新聞社などの取材に対し、新日鉄住金や三井物産と共同で進めている西豪州のウエスト・アンジェラス鉄鉱山の拡張について、ハーディング氏は「2015年1月の生産開始に向け、プロジェクトは順調に進んでおり、年産能力を600万㌧増やすだけでなく、鉱山自体の寿命を延ばすという両面から進めている」と語った。

今月にモザンビークの原料炭事業を売却して撤退したことに関しては、ウォルシュCEOは「原料炭マーケットは世界的に厳しく、モザンビークについては撤退したが、豪州にある既存のヘイルクリーク炭鉱、ケストレル炭鉱は引き続き操業している。特にケストレルは、これまで北側の鉱区で操業していたが、最近南側の鉱区に移行し、順調に生産量が上がっている」と話した。

また、銅事業を展開しているモンゴルでは、昨年7月にオユ・トルゴイ鉱山の操業を開始した。ウォルシュCEOは「現在第1段階として露天掘りで操業しているが、第2段階となる坑内掘りに向け、モンゴル政府と協議している。オユ・トルゴイのプロジェクトは長期に渡る。鉱山への電力供給で合意を得たり、現在は税制面での協議も行っており、モンゴル政府ときちんと合意した上で、未開発鉱区の開発や生産能力の拡張などについても進めていきたい」と述べた。

「アップル・ウォッチ」に採用
高耐食性Ni系ステンレス「SUS316L」
世界的な需要増期待

ステンレスの新たな世界的需要が来春にも生まれる。先ごろ、米アップル社が発表した腕時計型ウエアラブル端末「アップル・ウォッチ」。現在までに3機種の発売が予定されているが、このうち一般機種の素材に、高耐食性ニッケル系ステンレス「SUS316L」の鏡面研磨仕上げを使用した製品が使用される。1個当たり数十㌘と推定されるが、世界的な拡販となれば、ステンレス業界にとっては明るい話題となりそうだ。

アップルが発売する画期的な端末に、再びステンレスが採用された。前回、同社がステンレスを採用して世界的に大ヒットした「iPod（アイポッド）」は、ボディの裏蓋全面がSUS304のステンレス鋼板であり、日新製鋼が供給。1台当たり約85㌘を使用した。新潟県に拠点を置くコイルセンターが加工し、新潟市の小林研業が研磨を施した経緯がある。

アップルの創業者、故スティーブ・ジョブズ氏は"ステンレス好き"として、業界では知られている。特色である耐食性に加え、「メタル独特の美観性、剛性のほか、研磨時にはステンレスとしての機能が一段アップする特性に惚れた」（メーカー関係者）という。

来春にも発売されると言われるアップル・ウォッチでも、ステンレスの優れた機能性が強調されている。強度と美しさを保つため冷間鍛造のSUS316Lを使用。ケース部分には縦42㍉と同38㍉の2種類を用意した。リンクブレスレットにもSUS316Lが使われ、「部品数は100を超える」（アップル広報部）という。

アップル・ウォッチは、アップル独自のRetinaディスプレイを搭載。アイフォーンと連携したさまざまな技術的工夫により、世界標準時との誤差を0・05秒以内にとどめるなど、端末だけでなく、時計としての機能も充実している。国内のステンレス扱い業者が、アップル特需に沸く日が近くやって来るかもしれない。

ステンレスの新たな需要創出へ（アップル・ウォッチ）

日立金属
鋳鉄アジア統括部新設
日韓印拠点を管轄下に

日立金属は29日、耐熱鋳造品や高級ダクタイル鋳鉄部品、配管機器部門などの高級機能部品カンパニーに、鋳鉄アジア統括部を11月1日付で新設すると発表した。鋳物製品を主に製造する真岡工場が管轄下に入る。同時に同カンパニーの自動車機器統括部NM営業部を鋳鉄アジア営業部に改称し、鋳鉄アジア統括部の管轄下に置く。鋳鉄アジア営業部長には、現在、自動車機器統括部NM営業部長の坂倉均氏が就く。

新設する鋳鉄アジア統括部は、真岡工場のほか、自動車鋳物部品（高靭性ダクタイル鋳鉄品など）の好調な生産が続く韓国・インドの子会社を統括する。（人事異動は2面）

東京製鉄全工場
鉄スクラップ 500円値下げ

東京製鉄は30日入荷分からの鉄スクラップ購入価格を、全工場で全品種トン500円引き下げた。改定後の特級価格は次の通り。

▽田原工場（海・陸上）＝トン2万9000円
▽岡山工場（海・陸上）＝トン2万8000円
▽九州工場（海・陸上）＝トン2万9000円
▽宇都宮工場（陸上）＝トン2万9000円
▽高松鉄鋼センター（海・陸上）＝トン2万8000円

丸一鋼管
「正倉院展」に協賛

現在、奈良市の奈良国立博物館で「第66回正倉院展」が開催されているが、丸一鋼管が文化・社会貢献活動の一環として、2012年から協賛企業に加わっている。

今年の正倉院展には「白瑠璃瓶（はくるりのへい）」「人勝残欠雑張（じんしょうざんけつざっちょう）」など、天平文化の精華を伝える宝物59件が出陳されている。鈴木博之会長兼CEOは「華やかな天平文化を今日に伝える宝物を見て、いにしえの時代を感じていただきたい」としている。

正倉院展は11月12日まで。開催時間は平日が午前9時から午後6時、金・土・日・祝日は午後7時まで。

ねじ節鉄筋など商標登録取得
JFE条鋼

JFE条鋼（野村寛社長）は29日、ねじ節鉄筋、機械式継手、機械式定着工法用金物、グラウトの商品名を統一し、10月に特許庁の商標登録を取得したと発表した。

ねじ節鉄筋は従来、旧・ダイワスチールが「DSネジバー」、旧・豊平製鋼は「ネジベアーコン」の商品名で販売。2012年4月の新生・JFE条鋼発足を機に、これまで商品名および継手評定の統合作業を進めてきた。

日本建築センターをはじめ継手評定は豊平製造所、水島製造所で個別に評定を取得していたが、13年に全社統一評定を取得。このほど、ねじ節鉄筋を「ネジバー」、機械式継手を「ネジカプラー」、機械式定着工法用金物を「ネジプレート」、グラウト「ネジグラウト」という商品名で、特許庁の商標登録を取得したもの。統一した商品名で商標登録を取得したことによって評定、商品名ともに統合作業が完了した。

緑化優良工場等東北経産局長表彰を受賞
アイジー工業寒河江工場

アイジー工業の寒河江工場（山形県寒川江市）が、2014年度の緑化優良工場等東北経済産業局長表彰を受賞した。工場緑化を積極的に推進し、周辺の環境向上に顕著な功績のあった工場等に贈られるもので、05年度以来9年ぶりに行われ、本年度はアイジー工業のみが受賞した。表彰式は11月4日に同工場で行われる予定。

寒河江工場は、敷地面積6万3000平方㍍のうち34%にあたる約2万1000平方㍍を緑地として維持・管理するとともに、敷地内には松や桜、竹、紅葉などが植樹されており、自然の豊かさと日本情緒豊かな風情を醸し出している。年間を通じて担当員による手入れが行われるほか、社員総出による敷地内の一斉清掃や周辺歩道のクリーンアップ活動などを展開。98年には緑化優良工場表彰、日本緑化センター会長奨励賞を受賞している。

2014.10.30
金属春秋

少し日付をさかのぼるが、信濃川に架かる萬代橋や日本海夕日ラインなど、新潟の美しい景観を楽しめる新潟シティマラソンが10月の3連休に行われた。今年は県内外の鉄鋼関係者を含めた1万2000人超が参加し、3大会連続出場のゲストランナー・高橋尚子さんと一緒に走った▼この日は新潟県内でもう一つ大きなマラソン大会が催された。新潟市から100㌔㍍以上も西へ向かった上越市で行われた、えちご・くびき野100㌔マラソンである。当支局の事務員も夫婦で参加し、見事完走した▼さて、同じ日に2つのマラソン大会が行われた新潟市と上越市には来年3月14日以降、同一県でありながら全く別の新幹線が通ることになる。東京と新潟を結ぶ上越新幹線と、東京と金沢を結ぶ北陸新幹線である▼路線の異なる新幹線を持つのは、日本全国見渡しても新潟県のみ。県内からは上越新幹線沿線の地盤沈下や、北陸新幹線速達型車両の県内素通りなどを懸念する声が後を絶たないが、ここは両ルートの自治体が一致団結して、県全体で交流人口を増やす努力をしていくことが肝要だ。

きょうの紙面

三筒産業が創業50周年
金属スクラップ加工処理設備メーカーの三筒産業は、10月に創業50周年を迎えた。同社の強みや製品の特徴、今後の展開を筒井敏彦社長に聞いた。（3面）
世界建機需要が減速 3
高砂金属工業、本社に穴明け設備新設（4面）
東洋精鋼、北米市場で拡販推進（5面）
チタン合金スクラップ 再溶解用も底離れ気配（12面）

外為TTS（三菱東京UFJ銀行）（29日10時）

米ドル	109.13	↓
ユーロ	139.17	↓
ウォン（参考値）	10.56	↓
元（参考値）	17.99	↓

LME相場（現地28日セツル、㌦）

銅	6859.5	↑
アルミ	1990.5	↑
ニッケル	15055.0	↑
亜鉛	2252.5	↑
錫	19755.0	↑

鉄スクラップ総合価格（円、29日調べ）

H2	29,100
新断バラ	31,400

東証終値（29日、円）15,553.91（224.00↑）

新日鉄住金	272.6	↑
JFEHD	2,119.0	↑
神戸製鋼	170	↑
日新製鋼	986	↑

〈7面に主要企業株価欄〉

バルチック海運指数 現地28日	1395	↑
WTI原油先物（中心限月）現地28日	81.42	↑
中国輸入鉄鉱石着岸価格（CISA）現地24日	80.59	

おかげさまで50周年

お陰様で、当社はこのたび創業50周年を迎えます。
これもひとえに関係各位のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。
これからも新しい時代のニーズ・最新鋭の技術に挑戦し
お客様の信頼にお応えしてまいります。
今後ともなお一層のご支援とご愛顧を賜りますよう よろしくお願い申し上げます。

油圧シリンダーから一貫生産

オールマイティーシャーA型

オールマイティーシャーE型

日本資源機械工業協同組合員
三筒産業株式会社
本社・工場　高松市新田町甲73番地の1　電話(087)841-3131㈹・FAX841-2506
http://m-mito.com　Mail:info@m-mito.com

放射性物質マニュアル
鉄リ工業会が改訂
混入防止へ周知徹底

日本鉄リサイクル工業会はこのほど、「放射性物質混入防止マニュアル改定版」を作成した。「放射性物質発見時の対応」「大型放射線検知器の使用上の注意事項」「放射線検査すりぬけ防止策」「管理下にない放射性物質を見つけたら」「放射性物質混入スクラップ対応マニュアル」で構成。混入防止と発見時の対応について解説し、対応マニュアルも修正版を工業会ホームページに掲載する。

「放射性物質発見時の対応」については、アラームが鳴った際にまず検知器のメーカーに連絡、現場に検査担当者に行ってもらい、放射線の種類、線量をチェック。検知器メーカーに相談しつつ、日本アイソトープ協会に放射線の種類、線量を報告し指示を仰ぐようにとしている。

「大型放射線検知器の使用上の注意事項」としては、「特に輸出向けを行う大手処理業者は、各工場に大型（門型）放射線検知器を設置することが望ましい」とし、スイッチを常に正常な形で『On』の状態にしておくこと、アラーム設定数値は厳しく設定し、勝手に変更しないこと、マニュアルの厳守、定期的なメンテナンス、検知器メーカーとの緊密な関係維持、そして社員への教育周知を喚起する。

放射線汚染物質の混入防止については8月22日にも会員に文書で徹底を呼び掛け、商社流通委員会と港湾委員会合同の小委員会で対策マニュアルの改定作業を進めてきた。内部討議だけでなく、外部関係機関との打ち合わせも重ね、実効性を伴った効果的な混入防止対策策定を目指し、理解しやすい形になるよう努めた。

8月の韓国での汚染物質発見を契機とした厳しい管理方針にも対応するため、供給者側も厳格な混入防止策の徹底が必要としている。

鉄スクラップ
米、来月も下げ局面へ
トルコなど 海外冷え込みで

米国の鉄スクラップ市況は、11月も下落局面を迎えそうだ。東海岸からのトルコ向け新規鉄スクラップ輸出に加えて、西海岸からの東アジア向けが停滞するなど、海外市場の冷え込みが要因。特にトルコ向け輸出価格が直近ピークの8月比で約50㌦安となる一方、国内相場は20㌦程度の下げ幅にとどまっていることで、国内市況に対する下げ圧力が強まっている。

米国鉄鋼メーカーについては、11月の国内鉄スクラップ購入価格を10月比で10－20㌦引き下げる見通し。「米国内の鉄スクラップ市況の下落が海外市況の下落に拍車を掛ける可能性もある」（商社）と見る向きもある。

主要輸出先となるトルコについては、今月中旬に米国のほか、EU圏やバルト海周辺などからの鉄スクラップ輸入契約を行った。トルコの鉄スクラップ供給ソースとなる各国で、流通量の落ちる冬季を前に鉄スクラップ炉前在庫の補充に動いたと見られている。

米国内では今後、トルコ鉄鋼メーカーがさらに新規契約に動くとの見方もあるほか、「11月のメーカーの下げ発表後は、冬場へ向けて、ヤード在庫を積み増す動きも出てくるのでは」（流通筋）との声も聞かれる。

NSユナイテッド海運
海難事故緊急対応で演習
小畠社長ら模擬記者会見

NSユナイテッド海運は29日、海難事故を想定した緊急対応演習を実施した。午後には小畠徹社長、三浦和也執行役員が模擬記者会見を開き、事故への対応などを説明した。2年に一度の事故対応の演習で、今回は原油タンカーの衝突事故で原油が海に漏れ出した場合を想定し、修理など必要な対応の手順を確認した。

子会社が所有するタンカーが原油28万㌧あまりを満載した状態で、28日日本時間の9時半ごろマラッカ海峡でコンテナ船と衝突した事故を想定した。14時半の会見時点で、マレーシア当局の管理のもと、航路外に移動を始めている、などと状況を説明した。

過去に座礁事故などはあるが、他の船と衝突する事故は例がないという。過去2回の演習では主力のバラ積み船の事故を想定した。タンカーは二重底で座礁で油は漏れない見込みだが、衝突事故では漏れる恐れがあるうえ被害が大きいため、今回はタンカーの事故で油が漏れた場合に必要な対応を確かめた。

模擬会見する小畠社長㊧と三浦執行役員

Vプレミア 堺ブレイザーズいざ出陣

新日鉄住金が支援するバレーボールVプレミアリーグ、堺ブレイザーズの2014－15シーズン出陣式・激励会が28日、堺市堺区の新日鉄住金堺体育館で開催され、選手・スタッフ、地元関係者や企業・市民サポーターなど約400人が集まった。

出陣式では、主催者を代表して運営母体ブレイザーズスポーツクラブの佐藤一郎社長があいさつ。続いてブレイザーズの印東玄弥監督が「選手一同熱い思いをコートで表現していく。長いシーズンには苦しい時もあると思いますが、皆さまの応援をお願いします」と決意表明し、必勝祈願のだるまに眼入れを行った。

激励会では発起人を代表して、新日鉄住金の中島一博執行役員・和歌山製鉄所長があいさつし「今季はチームスタッフも一新され新たな節目を迎えて臨む。昨年は3位となり、選手たちは雪辱を果たすべく体力、チームプレーの強化とレベルアップに努めている。今季のリーグは実力伯仲と聞いているが、練習の成果を発揮して優勝を目指していただきたい。応援は最大の攻撃で選手を奮い立たせ、後押しとなる。皆さまの熱いご声援をお願いします」と呼び掛けた。

堺市の竹山修身市長が「気力、体力の充実を図り、三冠、優勝を目指して頑張って」と激励のあいさつを行い、市民応援団会長の音頭で乾杯を行った。今季開幕戦は11月15日、愛知県の小牧市スポーツ公園総合体育館で東レと対戦する。

中島・新日鉄住金和歌山製鉄所長

社会人野球日本選手権
JFE2チーム出場

単独チーム日本一・年間王座を決定する第40回記念社会人野球日本選手権大会が、11月1日から、京セラドーム大阪で開催される。

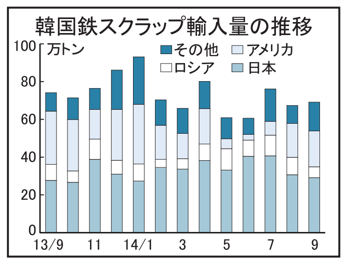
鉄鋼・金属業界からはJFE東日本とJFE西日本の2チームが出場し、頂点を目指す。

JFE東日本（関東・千葉）は4大会連続8回目の出場で、春のJABA東京スポニチ大会優勝により出場権を獲得した。JFE西日本（中国・広島）は9月に行われた中国第2代表決定戦に勝利し、6大会連続9回目の出場となった。

両チームの初戦は、JFE東日本が2日（日）の第4試合（午後6時開始予定）で、三菱重工広島との対戦。JFE西日本は4日（火）の第1試合（午前11時開始予定）、鷺宮製作所と対戦する。

9月輸入が69万㌧に減
韓国、3カ月ぶり

韓国の9月の鉄スクラップ輸入量は69万1048㌧で前年同月比6・8%減と3カ月ぶりのマイナス。仕入れ元別に見ると、日本が29万1069㌧で同5・1%増、アメリカが19万90㌧で同32・5%減、ロシアが5万7713㌧で同31・9%減となった。



9月積み期に反映した日本から韓国への8月契約の状況を見ると、韓国メーカーの在庫が160万㌧付近まで増加。韓国国内の価格引き下げもあって、成約が進みにくい状況もあった。また、9月に滞船問題が発生した影響もあるとみられる。

9月末から現代製鉄も日本産鉄スクラップの輸入を再開しているが、海外市況の下落もあり、直近の成約価格はFOBトン2万6000円。8月に現代製鉄が成約した大型船契約が11月の入着予定であることなど、今後も厳しい対応とみる向きもある。

JFE商事 4－9月期
経常益10%増

JFE商事は29日、2014年4－9月期の連結純利益が前年同期比89%減の7億円になったと発表した。豪石炭権益の減損処理など70億円の特別損失計上によって、4－6月期が最終赤字に転落したためで、7－9月期は40億円の最終黒字。

4－9月期の連結業績は売上高が11%増の9462億円、経常利益は10%増の114億円。国内は造船はじめ製造業向け鋼材販売が堅調に推移し、米国・タイ等の海外現地法人も好調だった。売上総利益は11%増の371億円、売上総利益率は3・9%で横ばい。JFE商事単独、分社2社（建材、鋼管）、国内子会社、海外子会社ともに増収増益だった。

15年3月期の連結経常利益予想は、前期比12%増の240億円。

JFE電磁鋼板
売上げ5.6%増

JFE電磁鋼板（中西敏修社長）の2014年4－9月期連結業績は、売上高が前年同期比5・6%増の72億2500万円、経常利益が5・1%減の7億6300万円、純利益が0・4%増の4億7500万円の増収減益となった。消費税増税の反動減が懸念されたが、販売数量は店売り向けが4・2%増の5万㌧、受託加工が1・7%増の24万6000㌧。

方向性電磁鋼板は、今年4月から新省エネ法に基づく変圧器のトップランナー規制（第二次基準）がスタートしたことに伴い販売量は堅調。しかし、無方向性電磁鋼板の販売構成変化により粗利益は減少した。

単独業績は、売上高が6・7%増の71億7200万円、経常利益が5・3%減の7億6600万円、純利益が横ばいの4億8400万円。

営業益3割増
中国販売好調
JFEコンテイナー

JFEコンテイナーが29日発表した2014年4－9月期連結決算は、国内と中国のドラム缶販売数量の増加で増収となり、一昨年同期並みの営業利益水準を回復した。為替差益の減少で経常利益は減益となったが、純利益は伊丹地区の不動産売却益で大幅に伸びた。

主力の200㍑ドラム缶の販売数量は国内が4・4%増の244万8000缶、中国が16・4%増の209万1000缶。中国は浙江工場の第2ラインの本格稼働で大幅に増え、全体に占める中国比率は前年同期の43・4%から46・1%に上昇した。通期では、国内が490万缶、中国が460万缶を見込んでおり、さらに中国比率が高まるとみている。

4—9月期連結決算

（単位:100万円、配当は円、中段は前年同期、下段は通期予想）

売上高	営業利益	経常利益	純利益	配当
日本精線				
16,403	1,414	1,421	921	5
15,206	1,165	1,194	741	5
32,000	2,600	2,600	1,700	10
JFEコンテイナー				
13,994	887	858	819	5
13,020	684	878	559	5
30,100	1,940	1,920	1,500	10
日本精工				
464,390	40,746	40,927	25,890	12
413,603	28,752	28,140	14,749	7
950,000	86,000	84,500	57,000	24
フジオーゼックス				
8,265	636	793	509	5
7,823	573	863	705	5
16,500	1,100	1,450	1,000	10
橋本総業				
55,946	474	626	615	15
56,109	596	728	458	10
128,000	1,900	2,200	1,490	30
テクノアソシエ				
44,367	910	960	734	10
53,605	1,801	1,889	1,428	10
92,000	2,800	2,800	1,900	20
カノークス				
56,919	993	1,027	712	—
54,087	1,008	1,021	632	—
115,246	2,035	2,069	1,395	12
東洋鋼鈑				
61,422	3,874	4,231	2,877	5
58,990	2,304	2,363	1,644	4
122,000	7,000	7,000	4,700	10

業績予想修正（連結）（単位:100万円）

上段は前回予想、下段が修正予想

売上高	営業利益	経常利益	純利益
高砂鉄工（4月—9月期）			
4,900	170	115	95
4,995	298	226	181
高砂鉄工（4月—3月期）			
10,000	360	250	210
10,000	490	360	310
フルサト工業（4月—9月期）			
39,500	1,160	1,300	780
40,804	1,282	1,436	896
東北特殊鋼（4月—9月期）			
8,600	730	780	480
8,900	920	1,030	680

決算メモ 2014年4－9月

ステンレス鋼線 販売数量アップ

日本精線 主力のステンレス鋼線は、建材関連の好調や海外向けの伸長で販売数量が増加。金属繊維は、ナスロンフィルターが国内外で低調だった一方、超精密ガスフィルターが期後半に、台湾や韓国向けで回復した。

経常益49%減

テクノアソシエ 売上高は前年同期比17・2%減、経常利益は同49・2%減。スマートフォン関連の国内メーカーの需要減、住建住設関連事業における消費増税後の需要反動減で影響を受けたものの、期初の業績予想は達成した。

下期は足元の自動車生産が優れないものの、15年1－3月期には戻ってくるとみており、通期ではほぼ前期並みの水準確保を見込んでいる。

売上げ5%増

カノークス 主力の自動車向け鋼板の販売数量が安定していたのに加え、単価も上昇。さらに建材向けなど非自動車用の鋼板も好調に推移し、5・2%の増収。ただ建材関連市況の低迷と物流コスト上昇などで、営業利益は1・5%の減益。トータルの販売数量は48万8000㌧と、前年比1万1000㌧増加した。財務体質強化はさらに進み、自己資本比率は過去最高更新を継続、34・5%となった。

経常益14%減

橋本総業 減収減益。売上高は前年同期実績と比べ0・3%減少、経常利益は同14%減少した。販売費および一般管理費は同5・4%増の48億7300万円だった。管材類は売上高が191億8311万円と前年同期比で4・7%減少した。主に非住宅系のパイプ・継手、住宅系の塩ビ製品の受注が減少した。

来月1日に「大運動会」
メタルワン

メタルワンは11月1日、「メタルワン大運動会－One for all, All for Metal One－」を都立大井ふ頭中央海浜公園・スポーツの森・陸上競技場で開催する。

初の大運動会のコンセプトは「BE AGGRESSIVE ∞ タテ・ヨコ・ナナメで繋がろう！」。「∞」はメタルワンのコーポレートロゴ「O」を横に二つつなげ、無限大の「∞」、さらに掛け合わせる「×」を表現。「積極性」とタテ・ヨコ・ナナメの「団結力」を掛け合わせることで、メタルワンの無限の可能性を追い求めていこうという思いが込められている。

東京本社社員、東京近郊のグループ会社への出向者約400人と家族100人の計500人が参加。チーム別の赤・青・黄・緑のTシャツを着用し、競技を通じて、親睦を図りつつ結束を固める。

ITフェア大阪で開催
内田洋行

内田洋行と内田洋行ITソリューションズは28日、大阪市中央区の大阪支店で「ITフェア2014IN大阪」を共催した。

同イベントでは「ビジネス・プロセスの革新～企業を成長させるヒントがここにある」をコンセプトに、ビジネス・プロセス、ワークスタイル、ICTインフラをテーマとした各種セミナーや展示会、タビオ会長の越智直正氏の特別講演などが行われた。

基調講演では日本M&Aセンターの雨森良治執行役員が、鉄鋼業界関係者向けに「中小企業の生き残り・事業継承に有効なM&Aの5つのポイント」をテーマに講演を行った。

雨森氏

講演では「中小企業のM&Aは後継者問題解決と安定経営を主な目的に年々増えており、隣接業種や異業種の組み合わせも多い」など近年の傾向を説明したのち、鉄鋼業界再編の歴史を紹介し「独立系の業者が、より川下の業者を買うニーズが目立っている」と分析。また、異業種の成功例をいくつか紹介し、ポイントとして「タイミングが最も重要」「他者に売れる準備をしておく」「買い手に求めるものを明確に」「株価はいくらが適正か」「相談相手の選択肢」の5つを挙げた。

組織と人事

日立金属（11月1日付）

【組織改正】

一、高級機能部品カンパニーに鋳鉄アジア統括部を新設し、真岡工場を管轄下に置く

一、高級機能部品カンパニー自動車機器統括部NM営業部を鋳鉄アジア営業部に改称し、鋳鉄アジア統括部の管轄下に置く

【人事異動】

■部長以上

《高級機能部品カンパニー》

▽次長兼鋳鉄アジア統括部長（次長）金承天 ▽企画部長兼技術開発部長（技術開発部長）上野大成 ▽自動車機器統括部長兼真岡工場長（真岡工場長兼製造部長）稲永孝 ▽熊谷工場製造部長（熊谷工場主管技師）伊藤仁 ▽真岡工場製造部長（真岡工場主管技師）末原清 ▽鋳鉄アジア統括部鋳鉄アジア営業部長（自動車機器統括部NM営業部長）坂倉均

日鉄住金建材（11月1日付）

■ライン長

▽仙台製造所副所長（戸畑工場長）阿部研仁 ▽戸畑工場長（生産技術部技術企画グループ長）千葉和裕

日鉄住金鋼板（11月1日付）

■部長代理

▽鋼板開発技術部西日本鋼板開発グループ部長代理〈尼崎在勤〉（鋼板開発技術部西日本鋼板開発グループ部長代理〈堺在勤〉）米谷悟

購読の申し込み
■日刊産業新聞 販売部 0120－300391
■申し込みフォーム http://www.japanmetal.com/koudoku.html

カノークス
東北拠点で設備投資
空見SSは耐震補強

【名古屋】カノークスは子会社で東北地区の拠点であるカノークス北上（岩手県北上市相去町）で加工設備増強工事を実施する。本年度下期中に自動車用鋼管の切断機と面取り機を増設、年度内の設置完了、稼働開始を目指す。

また同じくグループ会社の空見スチールサービス（名古屋市港区空見町）では、BCP対策の観点から西工場で耐震補強を実施、一部で工事に着手した。バットレス工法を採用し、稼働しながら工事を継続、15年5月の完成を見込んでいる。

岡谷エレクトロニクス
創立30周年式典開く

【名古屋】岡谷鋼機グループの岡谷エレクトロニクスは、20日に創立30周年を迎えたことから、17日に横浜市内のホテルで記念式典を開催、120人強が参加した。

同社は輸入半導体販売のための技術サポートを目的に、アイディーエス㈱として設立、90年に現社名に変更した。05年には本社を名古屋市から横浜市に移転、昨年度の売上高は326億円となっている。

式典当日は岡谷篤一・岡谷鋼機社長が祝辞を述べた後、記念品の授与や会社の歴史紹介、永年勤続表彰、ディナー、記念撮影などが行われた。

式典後の記念撮影

3地区炉前価格 前週比923円下落
10月4週、鉄源協

日本鉄源協会の鉄スクラップ市況調査によると、10月第4週の関東、中部、関西の3地区電炉メーカー炉前価格（H2）は平均トン2万7698円で、前週比923円安となった。

地区別で見ると、関東が2万8000円で1267円安、中部が2万6220円で1000円安、関西が2万8875円で500円安だった。

1—9月業績
MonotaRO 売上げ31%増

売上高は前年同期比31・8%増、経常利益は同5・3%増。20万5800口座の新規顧客を獲得し、9月末現在の登録会員数は132万8100口座となった。

1—9月期連結決算

（単位:100万円、中段は前年同期、下段は通期予想）

売上高	営業利益	経常利益	純利益
MonotaRo			
32,413	3,149	3,181	1,862
24,587	3,004	3,020	1,810
44,684	4,327	4,345	2,531

社史・団体史の発行をお考えですか？
個人史・書籍・単行本・記念誌・新聞・会社案内・カタログ・マニュアルなど
ご要望にお応えし、編集製作・印刷をお引き受けします。
お問い合わせ先 株式会社 産業新聞社 東京本社 TEL（03）5566-8777 大阪本社 TEL（06）6443-8551

日立建機

世界建機需要が減速

14年度 油圧ショベル1000台減

日立建機は2014年度の油圧ショベルの世界需要を、前年度比9％減の19万2000台と推計し、7月策定の前回予測より1000台減と下方修正した。鉱山機械は鉄鉱石、石炭の資源価格下落を受けて同20％強マイナスの大幅減とし、回復は15年度以降になるとした。油圧ショベル市場は北米、西欧が引き続き堅調に推移するものの、中国は同26％減と低迷、ブラジルが同17％減、インドネシアが同21％減と伸び悩む。新興国の比率は前年より5㌽下げ、52％にとどまり、世界の建機需要を下げると見ている。14年度の国内需要は、住宅着工戸数は減少するが、投資促進税制の効果で、同18％減と7㌽上方修正された。

これらを踏まえて、日立建機の14年度連結業績見通しは、売上高7400億円（同7・8％減）、経常利益550億円（同2・5％増）、当期純利益300億円（同3・7％増）と据え置いた。売上減を原価低減、経営効率化で補い、減収増益とする。

地域別に油圧ショベルの需要見通しを見ると、日本は同18％減の3万3000台で、前回見通しより3000台アップした。排ガス規制前の駆け込み需要の反動減のほか住宅着工が減少、設備投資・公共工事も鈍化するが、投資促進税制の効果で3万台を上回る。

西欧は同30％増の3万5000台。英国、ドイツ、フランスで需要が増加する。

北米は同4％増の2万5000台。住宅着工、建設投資は高水準で堅調を維持する。

これに対して中国（外資メーカー）は同26％減の3万7000台。前回予想より5p も下げ、4万台を下回る。不動産投資が鈍り、景気対策も小規模に抑制。14年7－9月期は華北同41％減、東北同39％減、華東同35％減、華中南同26％減など全地域で減少した。

アジア大洋州は、インドついては新政権発足で同8％減と、前回より3㌽上方修正された。しかし、インドネシアは同21％減と、石炭などの資源価格低迷が響き、鉱山投資の抑制が続く。

ロシア・CIS・東欧は同11％減。ウクライナ情勢で先行きは不透明で今後の展開は要注意とした。中南米は同14％減で、このうちブラジルは同17％減と下げる。

中東は同2％増で、サウジアラビア、UAEなどインフラ関連を中心に堅調という。

コベルコ建機 秋の大展示会

解体機フェアも初開催

コベルコ建機（藤岡純社長）と販売子会社の東日本コベルコ建機（花岡秀行社長）は25－26日、千葉県市川市の東日本コベルコ建機・市川センターで、毎秋恒例の展示会「躍進の時！コベルコ秋の大展示会2014」を開催した。翌27日には同センターで、初となる解体機専用の展示・試乗会「2014コベルコ解体機フェア」も行われた。3日間の来場者は1266社、3659人に上り、売上高も合計で21億5000万円に達した。目標の1200社、3400人、15億円を上回った。

前年度の展示会は、特定特殊自動車排ガス規制のオフロード法2011年基準の猶予期間切れを控えた駆け込み需要を見据えた開催となり、本年度はこの反動減も懸念されての開催となったが、目標を大きく超える成果を上げた。

今回の展示では、新製品のSK28SR、SK30SR、SK35SR、SK45SR、SK55SR、SK75SRをはじめ、オフロード法11年基準をクリアした7－23㌧の重機ショベルをフルラインアップし、高燃費性能、省エネ、排ガス規制と環境技術の強みをアピールした。25日、26日には超大型解体機、クレーン、BOMAG製品、ホイールローダーなど合計19機種を、27日の解体機フェアでは3㌧－200㌧クラスの解体機合計17台をそろえ、来場者の目を引いた。

出展機によるデモンストレーションも行われ、人気アニメの妖怪ウォッチの「ようかい体操」に合わた重機ショベルによるダンスも披露された。

初の試みとなった解体機の試乗体験も好評を博し、東京五輪開催に向け、本格化する関連施設の解体や、都市再開発プロジェクトの進行に伴うビル解体など解体機需要の増大を見据え、「解体機のコベルコ」を強く印象付けた。

㊤秋の大展示会2014 ㊦初めての解体機フェア

7－9月純損失 2四期連続赤字

米USスチール

米高炉大手のUSスチールが28日発表した7－9月決算によると、純損失は2億7000万㌦（約227億円、前年同期は17億9100万㌦の損失、4－6月は1800万㌦の損失）と2四半期連続の赤字だった。カナダ事業の分離など特別費用5億7700万㌦の計上が響いたが、米鋼板事業などの収益改善により、本業の営業利益は2008年以来の高水準だった。10－12月は高炉改修などの影響で7－9月比減益を見込む。

1－9月の営業利益は1600万㌦（前年同期は16億7100万㌦の損失）だった。純損失は1億7300万㌦（同19億4200万㌦の損失）だった。10－12月が営業黒字の場合は通期で2年ぶりの黒字化になる。

7－9月の鋼材出荷は510万7000㌧と4－6月比1・6％増えた。米鋼板の営業利益は3億4700万㌦と12倍に増えた。出荷は369万2000㌧と4・7％増、販売単価はネットトン77㌦と0・4％高だった。

7－9月はカナダ事業の分離関連で4億1300㌦、ゲーリー製鉄所の減損などで1億9900万㌦などの特別費用を計上した。

10－12月は米鋼板の減益により、営業利益は7－9月を下回ると見ている。カナダ事業の分離で出荷が減り、販売単価も下がる米鋼板の営業利益は1億㌦超を維持するが、米ペンシルバニア州モンバレーの高炉改修などで維持補修費が約1億5000万㌦増える。米鋼管事業と欧州事業はやや増益と見ている。

建設技術展2014近畿 鉄鋼関連企業が出展

「建設技術展2014近畿」が29－30日、マイドーム大阪で開催されており、鉄鋼関連企業からも新日鉄住金グループ、JFEグループはじめ数社出展している。

同イベントは新技術・新工法を展示・紹介することで、培われてきた建設技術のより一層の高度化や、広範囲の技術開発を促進し、建設産業のさらなる発展に寄与することが開催の主な目的で、SRGタカミヤ、淀川製鋼所、神鋼建材工業、日立造船、横河ブリッジ、大林組、NEXCO西日本・中日本、阪神高速道路、フリーフレーム協会などが出展している。

防災、環境、コスト縮減、安全・安心、施工、IT・ロボット、団体、学校などコンセプト別の各種技術展示のほか、特別講演会、パネルディスカッション、橋梁模型製作コンテスト、土木実験・プレゼン大会なども開催されている。

新日鉄住金・JFE 幹部が視察

「建設技術展2014近畿」が開幕し、新日鉄住金グループ、JFEグループ幹部が視察に訪れた。

新日鉄住金グループ（新日鉄住金、新日鉄住金エンジニアリング、日鉄住金建材、日鉄住金防蝕、ジオスター、新日鉄住金マテリアルズ・コンポジットカンパニー、日鉄住金テクノロジー、日鉄住金パイプライン&エンジニアリング）は「インフラ長寿命化・再生ソリューション」、「防災・減災ソリューション」をテーマに、「国土強靭化」に貢献する商品や工法を紹介している。

新日鉄住金の奥田真弥常務執行役員大阪支社長、藤井清澄副支社長が視察し、奥田常務は「来場者も多く、関心の高さがうかがえる。防災・減災に、インフラの長寿命化や再生といったテーマを加え、昨年以上に内容の充実した良い展示になっている。点検・診断から補修、更新・新設まで総合的な提案をご紹介したい」と話した。

JFEグループ（JFEスチール、JFEエンジニアリング、JFE建材、ジェコス、JFEシビル、JFEテクノリサーチ、JFE商事テールワン）は「安全・安心な街づくりに向けて」をテーマに、JFEスチール大阪建材・プロジェクト営業部が中心となって、グループ各社の防災減災商品・工法を出展している。

JFEスチールの那須七信常務執行役員大阪支社長、近藤弘志大阪支社副支社長が視察に訪れ、那須常務は「今回大阪地区では初めての出展となるが、JFEグループ全体で分野別に商品・工法を紹介し、よりお客さま目線で、明るく見やすい展示となっている。国土強靭化のニーズに応える商品ラインアップをそろえて発信する。来年以降も継続して取り組んでいきたい」とコメントした。

奥田常務㊨と藤井副支社長、堺ブレイザーズのマスコットも来場

那須常務（右から2人目）、近藤副支社長（同3人目）とグループ社員

三筒産業 創業50周年

油圧シリンダーから一貫生産

〝高付加価値化〟なお追求

金属スクラップ加工処理設備メーカーの三筒産業（本社＝香川県高松市、筒井敏彦社長）は10月に創業50周年を迎えた。同社は油圧シリンダーから一貫した自社生産を行う高い技術力を武器に、「オールマイティーシャー」、「サイドプレス」など企業理念に掲げる「質実剛健」にふさわしい製品を開発・製造してきた。同社の強みや製品の特徴、今後の展開について筒井敏彦社長に聞いた。

――まずは創業50周年を迎えた感想を。

「お客さまをはじめ、多くの方の力で50周年を迎えることができ、深く感謝を申し上げたい。日々の積み重ねの中で迎えた節目であり、これまでと大きく変わることはない。製品だけでなく、企業としても『質実剛健』であるよう、飾ることなく誠意あるサービス体制を整え、顧客満足度第一主義をモットーに事業を推進する。地域社会、金属リサイクル業界の発展に貢献できるたくましい企業であり続けたい」

――強みや製品の特徴について。

「当社は建機メーカー向けの油圧シリンダー製造から始まり、金属スクラップの加工処理設備の開発・製造へと事業展開してきた。油圧シリンダーの製造で培った技術を生かし、設計から製造まで全て自社で行うことで、短納期化と低価格化を実現している。油圧シャーであれば最短4カ月の納入も可能だ。また製品は受注後、顧客の扱うスクラップの種類や形状、特性などに合わせ、一つひとつ設計図面を引く。量を求めるのではなく、少量生産に徹することで細かなニーズに対応できる点も強みとなっている」

「主力の製品としては『オールマイティーシャー』と『サイドプレス』があり、どちらも近年は年間10基以上の納入実績がある。オールマイティーシャーは文字通り、どのような素材であっても切れることから名づけた。1971年に本格生産に着手したことが、当社にとっての転換点となった。サイドプレスはお客さまとの話し合いの中で誕生した製品で、使いやすさが最大の魅力だ。設置のための基礎工事が不要であり、油圧ユニットと本体が一体となっているため手軽に移動できる。開発当時は、油圧ユニットと本体が別々の製品が一般的であったため、使いやすさから自動車解体業を中心に、多く導入していただいた。こちらは解体機の横に置くことのできるプレス機ということが名前の由来だ」

――今後の事業展開について。

「人口減少や製造業の海外シフトにより金属スクラップの発生量が減少していくことは避けられない。この中で、金属リサイクルを行う企業には今後、加工処理のさらなる省力化、自動化や加工処理による付加価値の向上が必要になってくるだろう。また現状でも金属リサイクル業界全体の加工処理能力は需要の倍近い水準にあるともいわれており、処理設備については需要拡大は望めない。市場が縮小する中でも、当社はお客さまのニーズに合った付加価値の高い設備の開発を進め『かゆいところに手が届く』製品を提供していく。例えば、ギロチンであれば単にスクラップを切るだけでなく選別まで自動で行うような設備を要望に合わせ開発していきたい」

「設備メーカーとしての夢はスクラップを投入することで切断などの加工から溶かすところまで自動化できる機械の製造を手がけることだ。鉄スクラップを入れるだけで鉄筋が出てくる、冗談のような話ではあるが、そんな機械をいつの日か実現できるよう今後も研究・開発を続けていく」

（月森 七海）

筒井 敏彦社長

企業概要	
設立	1964年10月
資本金	3000万円
代表者	筒井敏彦
従業員	35人
本社住所	〒761-0102 香川県高松市新田町甲73番地1
電話番号	(087)841-3131(代)
FAX番号	(087)841-2506
URL	http://m-mito.com/
E－Mail	info@m-mito.com
設備	5面加工門型マシニングセンター ATC付数値制御横フライス中ぐり盤 ATC付NC数値制御横形マシニング ATC付NC数値制御縦形マシニングセンターほか
主要製品	オールマイティーシャー（スクラップ処理） サイドプレス（自動車解体） スクラッププレス（各種） 環境装置（各種） 油圧シリンダー、油圧ユニット、省力化機械など

沿革	
1964年10月	高松市築地町に油圧シリンダー内燃焼機再生を目的として三筒産業企業組合を創業
1965年12月	高松市新田町甲73-1（現在地）に工場を移転
1967年9月	三筒産業企業組合を三筒産業株式会社に改称
1968年5月	本社現在地に工場を新設
1969年6月	本社工場隣接地200坪を買収
1970年10月	旧資本金250万円を600万円に増資
1971年2月	オールマイティシャー・スクラッププレスを開発 本格生産に着手
1973年5月	旧資本金600万円を2000万円に増資
1973年7月	組立工場新設 1,500㎡
1982年11月	加工工場新設 1,500㎡
1992年5月	旧資本金2,000万円を3,000万円に増資

日刊産業新聞 14.10.30

エンジニアリング シンポジウム開催

「エネ戦略のあり方重要」

高橋理事長 日本の成長戦略軌道へ

エンジニアリング協会（理事長＝高橋誠・新日鉄住金エンジニアリング社長）は29日、日本都市センター会館で「エンジニアリングシンポジウム2014」を開催し、来場者数は延べ約3000人となった。

高橋理事長は「会員を取り巻く課題はエネルギー、環境、イノベーションの3つ。日本の成長戦略を軌道に乗せるにはエネルギー戦略のあり方が重要で、また途上国の人口急増や都市化進展などによる大気汚染、廃棄物増大などの深刻化に対する処理設備の整備を計画的に行う必要がある。一方で環境変化のスピードが増しており、成長事業の構築に必要なイノベーションを戦略的かつタイムリーに展開しなければならない。今年のシンポジウムを世界が持続的に成長するため、われわれが原点に立ち戻り、未来を拓くことに貢献する国内エンジニアリング産業を見直す機会にしてもらえれば」とあいさつした。

統一テーマは「世界の持続的成長に向けて～未来を拓く日本のエンジニアリング～」。午後は宇宙航空研究開発機構（JAXA）シニアフェロー・教授の川口淳一郎氏が『「はやぶさ」から伝えたい、創る力の育て方』のテーマで特別講演を、また東京ガス副会長の村木茂氏は『天然ガスと水素は環境・エネルギーの切り札となるのか』テーマで招待講演をそれぞれ行った。

また午前のプログラムは、A会場（持続的成長を支えるエネルギー）、B会場（クリーンな地球を約束するテクノロジー）、C会場（次代を創るイノベーション）に分かれて講演。A会場では、橘川武郎・一橋大学大学院商学研究科教授による「日本のエネルギー政策と電力・ガスシステム改革」などが、B会場は渡辺信・筑波大学生命環境系特命教授が「藻類によるグリーンエネルギー革命」など、C会場では市原英樹・大成建設技術センター建築技術開発部次長による「高さ140㍍の超高層ビル解体技術～キーワードは環境！～」などで講演した。

高橋理事長

東鉄連 トレンドグループ

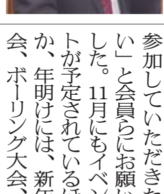
藤井氏招き講演会

東京鉄鋼販売業連合会（会長＝齊藤栄一・栄鋼管社長）の事業企画委員会トレンドグループ（グループ長＝岡部耕喜・東成鋼管社長）は29日、東京・茅場町の鉄鋼会館で藤井聡・内閣官房参与（京大院教授）を招いて「国土強靭化論―日本を強くしなやかに―」をテーマに講演会を開催し、会員ら約80人が参加した。

齊藤会長は「新しい組織での最初の事業。主催者は東鉄連だが、事業企画委員会のなかのトレンドグループが企画した。多くの事業が予定されているので参加していただきたい」と会員らにお願いした。11月にもイベントが予定されているほか、年明けには、新年会、ボーリング大会、落語鑑賞会、将棋大会、見学会が予定されている。

齊藤会長が国土強靭化を説明し、その第一人者の藤井聡氏を紹介して講演は始まった。

藤井氏は「葉隠れ」を引用しながら、国土強靭化計画を説明。国土強靭化は巨大地震の危機や老朽化などのインフラの危機だけでなく、デフレ不況の危機、エネルギー問題など多岐に渡る問題に対して、オール・ジャパンで取り組む必要があると訴えた。



講演する藤井氏

普通鋼鋼板 20㌦以上上げ

米AK

米高炉大手のAKスチールは28日、スポット市場向けの普通鋼鋼板価格を、新規受注分からネットトン20㌦（約2200円）以上引き上げると発表した。

京橋鉄友会

大川会長講演に100人

「鉄屋として半世紀」 自身の歩み語る

東京鉄鋼販売業連合会の構成団体、京橋鉄友会（理事長＝中村昭夫・中村鋼材社長）は28日夕、若手組織「鉄朋会」（会長＝中村智美・アイキ鉄鋼販売社長）とともに、大川宏之・芝浦ホールディングス取締役会長の講演会と若手社員交流会を開催し、27社約100人が参加した。テーマは「鉄屋として半世紀」で、これまでの自身の歩みを語った。

冒頭、鉄朋会副会長を務める永井信太郎・東邦ラス工業社長があいさつに立ち、「業界の大先輩から学ぼうという試みは、昨年から始めて今回が2回目。講演会で過去の歴史やご経験を学び、交流会では新しい人の輪を作り上げられるような場にしていただきたい」と若手社員に呼び掛けた。

大川会長はまず、自己紹介として戦中から戦後間もない時期の思い出から大学卒業後の旧三和銀行、そして芝浦鋼材入社までを語り、「芝浦鋼材に入社した翌日、前夜の歓迎会のお酒の影響で寝坊してしまい、当時社長だった父に一生忘れられないくらい猛烈に起こられた」と苦笑いで振り返った。当時の仕事ぶりに触れながら、「今はネット社会だが、フェイストゥフェイスが大事。また、客先へのメニューを少しでも余分に持つことが武器になる」と、差別化への考え方を示した。

事業に対する哲学では「70点経営者」を挙げ、「会社のすべての人が70点の能力を持てばいい。ただ、各部署においては120点を目指すことで、全体としてかなり良い点数の会社になる」と説明。さらに、事業を伸ばしていく上で「関心を持つこと、感動すること、感謝することの『三カン王』が大事」とした。

最後に、「一生懸命に生きてきた中で、いろいろな方々に引っ張り上げていただき、お付き合いさせてもらい、大変大きな感謝を持って生きてこられた。本日の講演が幾分でも参考になればありがたい」と締めくくった。講演終了後には、感謝の花束贈呈も行われた。

大川・芝浦HD会長